

はばたき

2020. No. 92

令和2年度 新規採用職員



三ヶ月が経って

令和二年度 新規採用職員
高島 拓海



今回、この原稿依頼のお話を頂いた時、最初に感じたのは、「もう三ヶ月経ったのか。」ということでした。本当にあつという間に過ぎた三か月でした。

施設長をはじめ、先輩職員の方々の温かい御指導もあり、入職前に感じていた不安は今では消え去り、充実した日々を過ごしています。例年とは全く異なる二〇二〇年の春でしたが、私たち新任職員に対しては、普段と変わらない丁寧な指導、研修を行っているに感じています。感謝の気持ちで一杯です。

この度の新型コロナウイルスの影響で、様々な施設の休業やイベント、大会などの中止が社会的にも大きく取り上げられています。そんなとき耳にするのが、「東日本大震災以来」という言葉です。九年前と比べると状況は違いますが、当時は思い返すと、学生ながらに感じていたのは、「当たり前」だと思っていたことは、一瞬にしてそうではなくなる、ということでした。この感染症も世の中の「当たり前」を全く違うものへと変え続けています。

しかし、そのようなことは一切関係なく、当たり前のように福祉施設は毎日が続いていきます。これまでの当たり前を維持するために昼夜を問わずたくさんの方が努力を重ねています。そこにどれだけ多くのことがあっても、私にはまだ到底理解することはできませんが、今は少しでも早く業務を覚えて、先輩方の負担を減らすことができるようにしていきたいです。

これからも、当たり前前の生活が当たり前のように続いていくことができれば、日々の丁寧にご利用の方々に寄り添い、楽しく毎日をご過ごしていきたいと思えます。

三ヶ月が経って

令和二年度 新規採用職員
高地 杏里



ふなばし工房 食品加工のジャム班配属になりました高地杏里です。

約3か月が経ちます。まだまだ覚えることや不安なことが多いですが、最近では利用者さんと関わっていく中で好きなことや嫌いなことなどの性格や特徴を少しずつですが知る事ができ、4月の頃より利用者さんとの距離が縮まってきたと感じています。これからはもっと一人一人のことを理解し、その人にあつた関わり方を探して利用者さんよりよい関係性を築きけるよう努力していきたいと思えます。

作業班では、ジャムの作り方やパンの作り方、お菓子の作り方など覚えること、気をつけることがたくさんあります。今まで経験のない事はかりに家に帰ると疲れて寝てしまうという生活を送っていますが、毎日が楽しく充実した日々を送っています。また、事務作業のほうも少しずつではありますが、細かく教えていただいたことに頭張りたいと思います。

今は利用者さんや先輩職員の方々に助けられている日々ですが、とても楽しく働かせていただいています。毎日様々なことを学びたくさん吸収し、早く職員としても社会人としてみたいです。大変な時期ではありますが、自分のできる事をしっかりとこなし自分らしく一生懸命に取り組みたいです。



八月 誕生日だけど

常務理事 千日 清

一年は早いものだ。酷暑でじつとりと、息苦しく、山から蝉の音が耳に入る。子供の頃感じた開放的季節であったのであろうあの頃の夏とは、受け止め方も体力もすっかり変わった今、また夏が来たかと思う。

甚大な被害をもたらした強風水害の復旧もままならない令和二年の年明けから、感染症の脅威に今日まで振り回されながら、果たして秋の夜空、厳しい冬、春を楽しみ、今日まで来たのであろうか。新人職員を迎え、年度を活き活きと開始したのであろうか。その時その時の区切りや節目を丁寧に進めて来なかったという反省の思いが残る。まさしくこれまで感じたことのない時間を過ごしている。

六月下旬、職員一名から感染者がいた。夕刻であったが即日施設には保健所や福祉課が訪れ、感染拡大を想定しながら、検査とその対応に追われ、施設は当然ながら大きな不安に包まれた。自身何を不安に思っているのか今でもよくわからない。ただ、施設か

ら感染者が出ると、こうなるんだと思つた。勿論感染した職員は即日入院し、幸い軽症であった。

三日間にわたって職員、利用者合わせて百名以上に検査が施され、全て陰性という全く予想しなかった結果であったが、その時は嬉しさや安堵感ではなく、心臓が止まるとはこういうことなのかと震えた。それからの経過観察期間の二週間も生きた心地はしないし、仕事も手につくことはなかった。

今回は感染の拡大から免れることが出来た。これは、入院していた職員の大きな恐怖と不安にピリオドを打ち、全ての業務を通常に戻すことに繋がると、この職員の名誉のために触れると、施設には自転車で通勤し、スパーに買い物に出る程度の自粛生活の中での感染には、さぞかし本人も驚いただろうし、隔離された病院内での不安は大きかったに違いない。電話をかけるたびに謝るのだから。

年明けから全職員が懸命に施設内の消毒にあたり、利用者と自分達の

健康管理に全力で努めてきた。春からはその対応にも更なる強化に努め、目に見えぬ脅威に立ち向かっている職員一人一人の努力に深く感謝している。

これまでに複数人の利用者や職員も検査を受けた。結果が出るまでの間に湧き起こる、本人と施設になんとも言えない不安感は、本当に人を疲弊させていく。インフルエンザ同様、なることが当たり前と開き直る訳ではないが、ならないようにする努力も勿論大切ではあるが、なつてしまった時からの対応をどのようにしていくのかに重点を置くことが集団という環境下では重要であろう。そもそも利用者自身の住まいであり、密接な関わりの中で、私たちは繰り返し繰り返し繰り返しの仕事をしているのだから。

利用者の行事を含める多くの計画が、形を変え頻度も変えてしまっている。そう簡単に短期間に終息しないであろうこの問題を、新しい生活創りの発想に役立てたい。でも速やかに。

六月初めから、久しぶりに外出をして、食事や買い物をしたときの楽しさうに、また興奮した利用者の顔をまたすぐに見よう。

六月初めから、職員を十五人から二〇人程度の六つのグループに分け、上手い焼き肉を腹一杯食いに出かけた。最後の六回目はまだ開かれていない。

この飯食い会を今年も繰り返そう。

職員は力強い。頼もしい。新人の職員達も先輩の彼らに任せておけば心配ない。大変な時期の仕事始めであったであろうが、きつと大丈夫。頼もしくなるに違いない。

この原稿を書いている今も、一人の利用者の検査結果待ちの時間。まもなく保健所から連絡が入りそう。深呼吸ばかり。

しかし、私たちの仕事は恵まれている。これまでざわざわとはしていても、仕事が途切れることがない。同じ日常的活動を行い、迷い、困り、達成し、褒められ、頑張る。

この仕事を継続していくのです。九州を中心とした低気圧の停滞による大雨被害は甚大である。感染症と併行し尚更作業に困難を極めている。心からお見舞いを申し上げるところです。

最後に、法人の各事業は安定し、継続しております。四月以降も各施設に職員が新たに加わっています。利用者の皆様への充実した生活と、質を高めるために、併行して職員を大切にしながらこの夏、いや今後も進めて参ります。

保健所から連絡が入りました。胸を撫で下ろして原稿を書き終えます。

人事往来

代宿地域支援センター 齊藤 航二



この4月より、代宿地域支援センター居住系部門の責任者に着任しました齊藤航二です。代宿地域支援センター(以下代宿)は、平成28年4月、千葉県社会福祉事業団より法人が事業譲渡を受けた事業所です。現在では、日中活動の事業所を3ヶ所、グループホーム9ヶ所を運営し、合計で約100名の方が利用されています。また、相談支援事業所も開設しており、文字通り地域の核(センター機能)として事業展開しています。

代宿の位置する袖ヶ浦市は、人口61,000人。船橋市のほぼ10分の1の規模になります。東京湾に面して工場地帯が広がっており、港湾設備、主要幹線道路も整備されていて、財政的には安定している自治体のような感じです。これまでの住民の皆さんに加え、新たに移り住んで来た皆さんが融合され、新しい街づくりが始まっている、そんな息吹を感じる地域です。

少し通勤距離が長くなったのですが、京葉道路から館山道に入り、養老川の高架に差し掛かると、右斜め前方に、稀ですが見事な富士山が見える時があります。感動しました。「私は日本人だ」と思える瞬間です。なかなか遭遇出来ないのが残念ですが……。

代宿は、藤森施設長の元、渡辺課長を中心に地元住民の皆さんとの関係を大切に事業を進めて参りましたが、この度渡辺課長が船橋地区に異動となり、この地域に不慣れな私が後任ということもあって、これまで通りの地域とのお付き合いが出来るのが大きな不安要素の一つです。

今年、新型コロナウイルスの影響で地域の盆踊り大会等行事が相次いで中止となり、地元の皆さんと触れ合う機会がほとんど減っているのですが、それでも事業所周辺の掃除や草刈りをしていると気軽に挨拶していただいたり、これまで続いている収穫祭のような物もお声を掛けていただいています。渡辺課長と同じようにはいきませんが、渡辺課長の後を受けた代宿生え抜きの関根係長と共に、これまでと変わらぬ代宿の発展に少しでも寄与出来ればと考えております。

異動前、きちんとしたご挨拶も出来なかった船橋市光風みどり園の保護者の皆様には、長きに渡り大変お世話になりましたこと、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

これからは、はばたきやSNS等を通じて代宿の魅力をどんどんと発信し、「大久保にはこんなところもあるのか」ともっともっと知っていただけるよう頑張つて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

大久保学園 渡辺 隆



袖ヶ浦市にある代宿地域支援センターから今年度四月に大久保学園に転任した支援課長の渡辺です。障害者施設で仕事を始めてから今年で三十五年以上になります。千葉県社会福祉事業団が運営していた代宿地域支援センターが平成二十八年度に大久保学園の一員となり、今年き継いだときに、事業所と共に大久保学園の一員となり、今年で五年目を迎えます。

大久保学園での緊張と不安だらけで始まった初日からの半年余り、職員の皆さんには、細かな点までの心配りをいただきました。更に職員の皆さんの高齢化等で急激に変化する利用者の皆さんが、少しでも快適に暮らせるように時には夜遅くまで議論し、日々努力している一人ひとりの職員の皆さんを間近に見て、共に仕事ができるようになった。今、をととても感謝しています。

法人の一員として四年間が過ぎましたが、前勤務地の袖ヶ浦市から年に数回、会議や学園祭などで訪れるだけでしたので、建物の配置、利用者さんのこと、職員の皆さんのこと、業務のことなど、初めて都会に出てきたおのぼりさん状態でした。赴任した初日からの数日間、学園内を隅から隅まで歩きました。正面の門扉からグラウンドなどの人目の付くところばかりでなく、普段人が訪れることがないような建物の裏や屋内の一つ一つの部屋、どれもがきれいに保たれていました。この環境、この心地よさは、毎朝の風景となつている園庭を仲間と楽しそうに掃いている職員、樹木に水掛けする職員、落ちていたゴミをすぐに片付ける職員など、ごく自然に、ごく当たり前になっている職員の皆さんの大久保学園を大切に思う気持ちから生まれているのだと感じました。これは、先人が苦労して築き、大切にしてきた大久保学園スピリットだと思います。「ローマは一日してならず」のように「大久保学園は一日してならず」と、来たばかりで生意気なこと言わないと言われそうですが、おのぼりさんである私にはとても強く印象に残り、重責を感じています。今年度は、コロナで始まり、コロナで終わってしまいましたが、保護者の皆様と直接お会いしてご挨拶する機会がなく、今回「はばたき」を通じてのご挨拶となつてしまいました。少しでも利用者の皆様が好き、穏やかに過ごせるように微力ながら努めて参りますので、宜しくお願ひ致します。

光風みどり園 竹内 憲一



今年度4月より光風みどり園管理者として着任致しました竹内と申します。

この度このような大役を仰せつかることとなり、不安な気持ちの中、早いもので5か月ほどが過ぎようとしています。大久保学園入所施設で2年間、ふなばし工房で21年間従事させていただき、慣れ親しんだ金堀町の地から大神保町へステージを移すこととなりました。通勤時に車で大久保学園の前を通って光風みどり園へ向かうのですが、異動当初は23年間の体へのしみ込んだ習慣からか、何度か大久保学園駐車場へ車を入れてしまったことがあります。

今回は春先からコロナウイルスの危機にさらされ、様々な行事や日常が制限され、何か物静かな雰囲気や年度切り替えでありました。光風みどり園でも例年の春風祭や前期食事会なども集団での催し物であるため、苦渋の決断ではありましたが中止とさせていただきます。このところ徐々にいつもの日常にもどりつつありますが、いつ感染が再燃するか全く先の見えない状況が続いています。

光風みどり園は平成17年より船橋市より指定管理という形で大久保学園が運営してきました。今まで平日常務理事、齋藤施設長をはじめ、光風みどり園で築きあげてきた皆さまの尽力により多くの利用者様、保護者様、地域の皆様、船橋市等関係者の皆様より信頼とご理解を頂けております。私自身、今まで永い間ふなばし工房で汗にまみれ利用者と一緒にがんばりに作業を行い1円でも多く工賃を支払うためにと努力してきました。内容や特色が異なる光風みどり園にて従事することとなり、今の自分に何ができるか？利用者の「働き、対価を得る、生きがいを感じる」に重きを置いてきましたが、その経験に加え、「働く形の多様性、生きがい、楽しみの在り方、安心とは何か？」などをより深く考えていきたいと思います。今までの光風みどり園を築いてきた経緯を尊重しながら、微力ではありますが少しでも利用者、保護者の皆様、そして一緒に働く仲間プラスになれるよう努力して参りたいと思います。数十年ぶりの一年生。このドキドキ感を忘れずに猪突猛進とまではいかず牛歩かもしれないですが、進んでいきたいと思っております。最後になりましたが皆様の「指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

新型コロナウイルス対策用品寄贈



石川清隆・木原勝美・永田笑子・秦野愛子
吉田浩子・山路友理子・野尻武生・長谷川
細井 明・矢作 榮・蛸島博子・池田洋子
中村美智子・加藤武治・佐藤恵美子・石川 清
榎山あかね・高橋 實・坂元哲雄・山崎理甲
七海勝則・吉内利幸・高橋京子・加藤房治
本 忠信・磯野広美・安藤和代・坪内宣昭
豊田美紀・石神恵子・後藤三重子・渡邊 晃
矢口勇雄・菅谷くに江・堤 忠博・関 修治
渋谷法久・大久保千代子・阪井重次・飯吉康二
梨香園保護者会・村島哲男・多田宏之・谷口久子
下島浩一

「#福祉現場にもマスクを」プロジェクトの皆様
東京城西ロータリークラブ・マイクロナシステム
市川市福祉部障がい者支援課・船橋市障害福祉課
袖ヶ浦市役所・袖ヶ浦市社会福祉施設等連絡協議会
(敬称略・順不同)

ありがとうございます

寄付金

令和二年四月一日
〜令和二年七月二十日

〔後援会〕
山崎つたい・其田鉄三郎

〔一般〕

菅沼さわ・石川 清・川瀬育子
和田浩行・野尻武生
光風みどり園保護者会
(敬称略)

ありがとうございます

行事予定について

早く皆様に予定をお知らせしたい気持ちでいっぱいですが、様々な予定の変更を余儀なくされている状況です。予定が決まり次第、お知らせさせて頂きたいと思っております。

はばたき 二〇二〇 九二号

発行/令和二年八月
発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二
FAX 〇四七(四五七)四〇六九
URL http://www.okubogakuen.or.jp
Mail shienka@okubogakuen.or.jp
編集/大久保学園 広報委員会
表題書/大久保学園理事長 中原 強